

2026

6/8  
MON

No.

536

 Jトラスト グローバル証券

マーケットレポート

# Weekly Market Report



 **JTG証券**  
Jトラスト グローバル証券

# 潮流底流

## 新FRB議長「過剰な言葉」有害論

金利ガイダンスや物価指標の見直し等様々な改革や政策転換を掲げるケビン・ウォーシュ新FRB議長が初めて差配する6月FOMC（16-17日）は政策転換の本気度とFRB改革スピードの試金石とされる一方、「利上げの是非についてしっかりと議論する」とした植田日銀総裁が差配する日銀6月会合（15-16日）で0.25%の利上げが既に当然視されている。

「FRBは優れた予測者でない」と新議長

「政策立案者が経済予測を明かすと、自分の言葉に囚われてしまう可能性がある。FRBの指導者は最新の見解を共有する機会を逃したほうがよいでしょう（“Once policymakers reveal their economic forecast, they can become prisoners of their own words. Fed leaders would be well served to skip opportunities to share their latest musings.”）」－。ウォーシュ新FRB議長氏は昨年の議会演説でFRB改革の一端をこう喝破した。つまり、新FRB議長は絶え間ない“呪文”を唱える方が害になると考えている（The incoming chair thinks that constant ‘incantations’ do more harm than good）ようであり、かかるFRB改革の遂行の一助とすべく、ウォーシュ新議長は、保守系シンクタンク「ヘリテージ財団」『Mandate for Leadership（リーダーシップへの使命）』（2023年）及び『Project 2025（プロジェクト2025）』で米FRBに批判的な見解を示したポール・ウィンフリー氏とスタンフォード大学フーバー研究所のウォーシュ氏と同僚の1人で財政政策に造詣の深いダニエル・ハイル氏の2人の保守系政策専門家を臨時顧問に起用した（米WSJ紙2日電子版）－。

これまでウォーシュ氏はFRBが本来の使命から逸脱しているとし、抜本的な改革に取り組む方針を打ち出してきた。FRB職員への6月2日付「書簡」でも、「最優先事項はFRBの責務と国益に叶う形で政策を適切に運営すること。職員が最高の仕事を成し遂げられるよう支える環境を整える」と強調、「より良い選択肢が見つかった場合には、過去の慣行に固執はしない。今後数四半期にわたりFRBの戦略、政策、運営について率直で冷静な議論を共に行いたい」と訴えた。

むろん、そもそも金利「ドットプロット」は2012年にバーナンキ元議長が導入したもので、フォワードガイダンスなどはゼロ金利時代の中銀のコミュニケーション手段の一つで時代遅れの遺物とされる。「市場を動かすのは魅力的だが、役に立たない」とする

ウォーシュ氏のフォワードガイダンスとドットプロット後退論は不確実性と変動性を生む可能性がある。

日銀6月利上げ「日米金利差縮小」円安抑制

案の定、ウォーシュ氏は5月の議会上院の承認公聴会で、「過去や現在の多くの同僚とは異なり、私は前向きな指導を信じていない（“Unlike many of my colleagues past and present, I don’t believe in forward guidance.”）」－、「将来の決定がどのようなものかを先見すべきではないと思う（“I don’t believe that I should be previewing for you what a future decision might be.”）」と喝破している。さらに、「ウォーシュ氏はFRBが特に優れた予測者ではないことを理解している。そして、その信頼性は得意でないことをすることで高まらない（“Warsh appreciates the Fed’s not a particularly good forecaster. And that its credibility is not furthered by doing something that it’s not good at.”）」（元FRB上級職員BNYインバーストメントのチーフエコノミスト）－。

つまり、「言葉の魔法は使いすぎたり『現実』の世界と矛盾したりすると機能しなくなる（Verbal magic stops working when it is overused, or is at odds with the “real” world）」（英FT紙6月3日電子版）という。もっとも、複数の米FRBウォッチャーは、「ウォーシュ議長が差配する6月FOMCから中銀の金利ガイダンスの見直しを開始する」と予想しており、四半期毎の「ドットプロット」金利予測を含め米FRBの金利ガイダンス後退には注意が要されそうだ。

一方、日銀の植田和男総裁は6月3日、共同通信「きさらぎ会」で講演し、「物価上昇は一時的なものにとどまらず、基調的な物価上昇率が上振れしていくリスクも意識せざるを得ない」とし、「経済下振れリスクに比べ物価の上振れリスクが高いと判断されれば、利上げの是非についてしっかりと議論する必要がある」と中東情勢が不透明でもインフレリスクを重視し利上げに踏み切る可能性をいつになく鮮明にした。

既に、日銀は来夏にかけて3回の利上げで政策金利1.5%への引き上げを想定しているとされ、日米金利差縮小により円安が抑制されそうだ。

# 目次

|    |                |
|----|----------------|
| 2  | 「潮流底流」         |
| 3  | 目次 / 今週の注目イベント |
| 4  | 世界金利マップ        |
| 6  | 国内概況           |
| 7  | 米国概況           |
| 8  | 欧州概況           |
| 9  | ドル円 為替展望       |
| 10 | 中国概況           |
| 11 | 豪州概況           |
| 12 | ブラジル概況         |
| 13 | トルコ概況          |
| 14 | ロシア概況          |
| 15 | インド概況          |
| 16 | 日本株 注目スクリーニング  |
| 17 | 日本株 注目カテゴリー    |
| 18 | 日本株 注目銘柄 1     |
| 19 | 日本株 注目銘柄 2     |
| 20 | 日本株 注目銘柄 3     |
| 21 | 日本株 注目銘柄 4     |
| 22 | 日本株 注目銘柄 5     |
| 23 | 経済指標発表         |

## 今週の注目イベント



(米)5月消費者物価指数 (CPI)  
6月10日 (水) 午後9時30分発表予定

(予想は、前年比+4.2%) 参考となる4月実績は前年比+3.8%。  
エネルギー価格の高止まりに加え、ホルムズ海峡封鎖に伴う輸送コスト上昇がサービス価格にも波及しており、5月は4月実績を上回る高水準となる見込み。さらに予想を上回る結果となれば、連邦準備制度理事会 (FRB) による早期の利上げ観測が強まり、ドル買いが強まる可能性がある。



(欧)ECB政策金利・ラガルド総裁定例記者会見  
6月11日 (木) 午後9時15分発表予定

(予想は、2.40%) 前回は2.15%。参考となる5月のユーロ圏CPI (前年比+3.2%) は欧州中央銀行 (ECB) の目標を上回っており、生産者物価にも上昇圧力がみられている。ラガルド総裁がインフレ抑制を重視する姿勢を示した場合はユーロ買い・ドル売りが進み、ドル・円の上値を抑える要因となりそう。一方、追加利上げに前向きな姿勢が示されなければ、ユーロ売り・ドル買いにつながる可能性がある。



米)6月ミシガン大学消費者態度指数速報値  
6月12日 (金) 午後11時発表予定

(予想は、46.0) 参考となる5月実績は44.8と低水準にとどまった。エネルギー価格の高止まりや関税拡大懸念が消費者マインドの重しとなっており、6月も厳しい水準が続く見込みながら、前回からの小幅改善が予想されている。予想を下回る結果となれば、景気後退懸念が強まりドル売りにつながる可能性があり、逆に上振れた場合は、個人消費の底堅さを示すとしてドル買いを後押しする展開も想定される。

## 10年国債金利マップ The Map of Interest rates for 10 years government bonds

ドイツ  
3.04%

ロシア  
-

中国  
1.72%

トルコ  
34.62%

インド  
6.98%

オーストラリア  
4.91%

## 世界ニューストピックス WORLD News Topics

### 米F R B、原油高長期化なら利上げも＝強い雇用、タカ派鮮明に

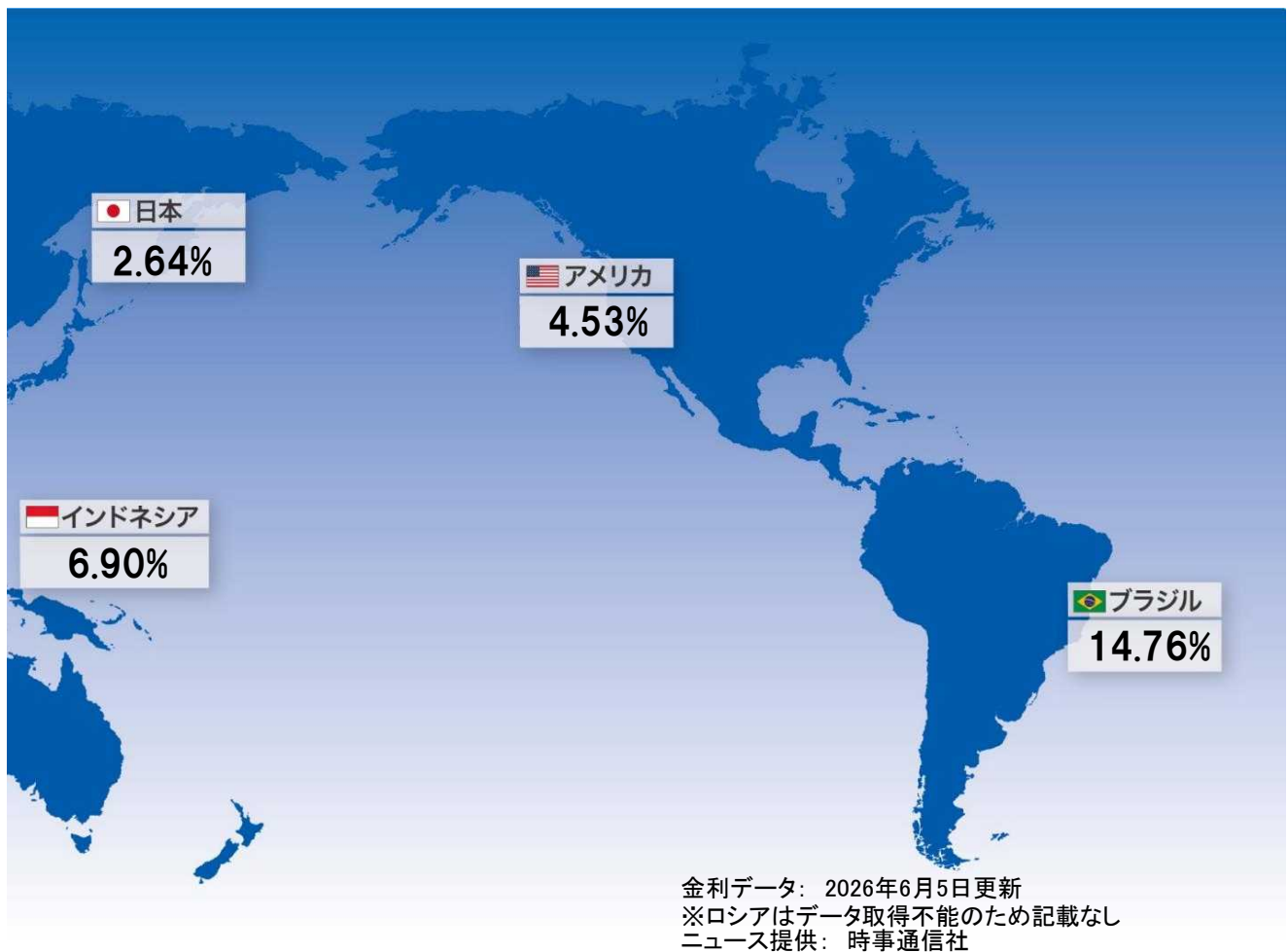
2026年6月8日

5日公表された5月の米雇用統計では、景気動向を敏感に反映する非農業部門の就業者数が市場予想の2倍となった。労働市場が想定以上に底堅さを保つ一方、中東紛争に伴う原油高の長期化でインフレ懸念は増大。「雇用最大化」と「物価安定」を掲げる米連邦準備制度理事会（F R B）からは、利上げの必要性を示唆する高官発言が相次ぎ、金融緩和に慎重な「タカ派」色を鮮明にしている。金融緩和に前向きな「ハト派」路線を期待するトランプ米大統領から指名を受けたウォーシュ新議長。今月16、17両日、就任後初の金融政策会合に臨む。原油高の影響で直近の米物価上昇率は3.8%と、F R B目標の2%を大幅に超過。拙速な緩和は景気を刺激し、インフレを助長しかねないため、利下げ論を凍結する可能性もある。雇用統計はF R Bが金融政策運営を判断する際に重視する指標の一つ。3月以降は労働市場の強さを示す内容が続き、5月は非農業部門就業者数が前月比17万2000人増と市場予想を大幅に上回った。今月11日に北米で開幕するサッカーワールドカップ（W杯）の需要を見込んだレジャー産業が7万人増と全体をけん引した。金利先物を踏まえて政策変更の確率を算出するC M Eグループのフェドウォッチでは5日、年内に1回以上の利上げが行われる確率が前日の約5割から一時、約7割まで上昇。F R Bが緩和路線から引き締めに転じるとの見方が一段と強まった。（後略）（C）時事通信社

### 米、「イラン資産」活用検討＝湾岸諸国の被害修復

2026年6月8日

米財務省が、イランによる攻撃で破壊された湾岸諸国の施設を修復するために、「イランの資産」を活用する方向で検討していることが6日、分かった。関係筋が明らかにした。米国との戦闘終結に向けた交渉で、在外資産の凍結解除を求めているイランが反発を強めそうだ。2月末に米イスラエルがイランへの攻撃を開始した後、イランの反撃で湾岸諸国のインフラ施設が破損するなどの被害が出た。これを受け、ベセント財務長官は、修復に必要な費用を試算するよう指示した。施設の再建のために「イランの資産」を充てることを視野に入れているという。湾岸諸国の施設の修復で具体的にどの資産を使うかは明らかになっていない。米財務省は、核開発やテロ行為の支援を行っているとして、イランの関係者や機関を制裁対象に指定し、在外資産を凍結している。ルビオ国務長官は2日の上院公聴会で「イランへの制裁は核関連活動が理由だ」と述べ、イランが核放棄に応じない限り、制裁を緩和しない考えを示した。一方、イラン最高指導者モジタバ・ハメネイ師の軍事顧問レザーイ氏は5日、米CNNテレビのインタビューで、イランの在外資産240億ドル（約3兆8000億円）の凍結解除を要求した。イランメディアによると仲介国パキスタンのナクビ内相は6日、イランの首都テヘランでモメニ内相と会談した。ナクビ氏は軍トップのムニール参謀長からモジタバ師に宛てた「特別な書簡」を持参したという。（後略）（C）時事通信社



## 米政府、A I 企業の株式取得を検討＝トランプ氏表明、近く会合開催

2026年6月7日

トランプ米大統領は5日、米政府が人工知能（A I）企業の株式取得を検討していると表明した。ホワイトハウスで近く、関連企業との会合を開く考えも示した。複数の米メディアによると、政権高官が生成A I「チャットG P T」を手掛ける米オープンA Iとの間で協議を進めているという。トランプ氏は大統領専用機内で記者団に対し、急成長を遂げるA I企業の株式取得を通じて「A Iの成功から国民が恩恵を受けられるようにする」と説明した。具体的な企業名には言及しなかったが、「非常に金額が大きいので、一部を国民に還元し、国民が企業とパートナーになる構想がある」と述べた。報道によれば、オープンA Iのアルトマン最高経営責任者（C E O）が昨年、米政府への株式提供をトランプ氏に提案した。経済的利益を国民に広く再分配する一方、同社にとっては規制当局からの許認可取得で有利に働くとの見方も出ている。米政府は昨年、経営不振に陥っていた米半導体大手インテルの生産拡大を後押しする狙いで、約89億ドル（約1兆4000億円）出資。約10%の株式を取得した。他の企業の株式も取得する意向を示していたが、政府による企業への介入との批判も出ている。（C）時事通信社

## 米大統領「利下げ望む」＝F R B新議長に判断「任せる」

2026年6月6日

トランプ米大統領は5日、連邦準備制度理事会（F R B）による「利下げを望んでいる」との認識を改めて示した。その上で、判断はウォーシュF R B議長に任せると述べた。大統領専用機で記者団から、F R Bが今月中旬の連邦公開市場委員会（F O M C）で利下げすべきか問われた。5日公表の米雇用統計では、非農業部門の就業者数の伸びが市場予想を大きく上回り、堅調さが示された。中東情勢の悪化に伴うインフレ懸念が高まる中、市場では利下げが一層困難な状況となり、年内の利上げ観測が強まっている。トランプ氏は雇用統計について「予想をはるかに上回る素晴らしいものだった」と指摘。市場で「インフレが過度に重視されている」と主張した。その上で「経済成長は必ずしもインフレにつながるとは限らない」と強調。「数字が良い時こそ、成長を抑制すべきではない」と利下げの必要性を訴えた。

（C）時事通信社



## 消費支出は5カ月連続のマイナスに

総務省が6月5日に発表した4月の家計調査によると、消費支出は32万8969円となった。前年同月比では0.5%の減少となり、5カ月連続のマイナスとなっている。中東情勢を巡る不透明感で消費者心理が悪化したものの、市場予想の1.5%減ほどは悪化しなかった。食料は0.6%減で3カ月連続の減少に。

## 日経平均は一進一退、ブロードコム急落でAI株過熱感への警戒が表面化

一進一退。週央にかけて大きく上昇し、6月3日には高値を68786円まで伸ばした。米半導体株高を追い風にして、人工知能（AI）関連株の上値追いが続く形に。ただ、その後は一転、人工知能（AI）関連株に利食い売りが集まる展開へ。米ブロードコムが決算発表後に大幅安となったことでAI関連株への過熱警戒感が表面化することとなった。

## 日経平均、今週は上値の重い展開か、AI・半導体株安の様相強まる公算大で

上値の重い展開か。先週末の米国市場ではフィラデルフィア半導体株指数（SOX）が10%超の急落となり、週初は東京市場で人工知能（AI）・半導体関連株安の様相が強まろう。また米スペースXの上場などは需給懸念にもつながるため、早期のリバウンド期待は高めにくいとみる。一方、これまでAI一極集中で押し目買いが進まなかった出遅れ銘柄には、リバウンド余地も。

## 10年債利回りは強含み、原油高への懸念や6月利上げ観測で売り優勢

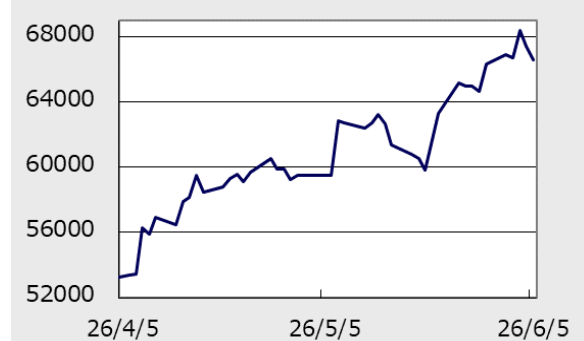
利回りは強含み。年金基金の資産配分調整などを背景に10年国債入札で旺盛な需要が確認され、10年国債利回りは急低下する場面があった。しかし、原油高への根強い警戒感と植田総裁発言を受けた日本銀行による6月追加利上げ観測の強まりから週を通してみれば売りが優勢だった。週間で日本国債利回りは強含みに。

## 10年債、今週は利回りは横ばいか、原油高への過度な警戒感に歯止めを見込む

利回りは横ばいか。イスラエルとレバノンの親イラン組織ヒズボラとの軍事衝突は続きそうだ。しかし、米国とイランはお互いを牽制しつつも、本音では本格的な戦闘再開を回避したい意向とみられる。原油高への過度な警戒感に歯止めがかかる中、歴史的な高値圏にある日本国債利回りは上下に揺れやすいが、週間で横ばいへ。

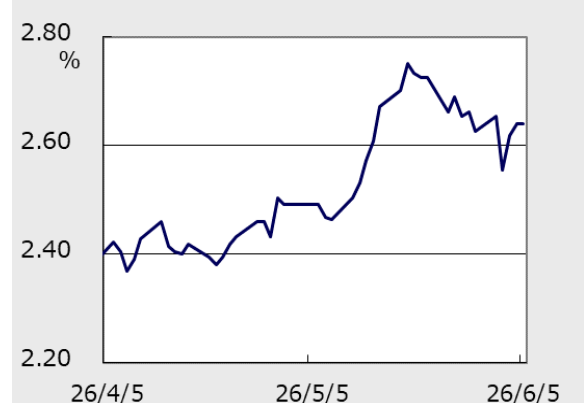
| 発表日   | 期間   | 指標名           |
|-------|------|---------------|
| 6月09日 | 05月  | 工作機械受注        |
| 6月10日 | 05月  | 国内企業物価指数      |
| 6月11日 | 4-6月 | 景況判断BSI大企業製造業 |
| 6月11日 | 05月  | 東京オフィス空室率     |
| 6月12日 | 04月  | 設備稼働率         |
| 6月12日 | 04月  | 鉱工業生産指数       |

## 日経平均株価



|          |                 |
|----------|-----------------|
| 日経平均週末終値 | 66588.12 円      |
| 想定レンジ    | 63500 ~ 68500 円 |

## 10年債利回り



|           |               |
|-----------|---------------|
| 10年国債週末終値 | 2.67 %        |
| 想定レンジ     | 2.64 ~ 2.69 % |



## 米国概況

U.S.A



### 雇用者数は市場予想を大きく上振れ

米労働省が6月5日に発表した5月の雇用統計では、非農業部門雇用者数は前月から17万2000人増加した。8-11万人ほどの増加を見込んでいた市場予想を大きく上振れ。失業率は4.3%と前月から横ばい。雇用者数の増加を牽引したのは、飲食店を含むレジャー分野であった。

### 米国株はもみ合い、年内の利上げ観測が台頭

もみ合い。週前半は、イランとの和平交渉進展期待が優勢となる。ただ、その後は、対イラン衝突激化で和平合意期待が後退の方向へ。また、ブロードコムが決算発表後に大きく下落して、半導体関連株の重しにもなった。週末は5月雇用統計で雇用者数が市場予想を大幅に上回った。これに伴って年内の利上げ観測が急速に台頭、ハイテク株中心に売り圧力が強まる形となった。

### 米国株、今週は軟化を予想、AI関連株の調整強まる公算

軟化を予想。上昇相場を主導してきた人工知能（AI）関連株には過熱警戒感が顕在化、大型の新規上場（IPO）も控えることで、目先は換金売りが優勢の展開となりそうだ。また、インフレ進行への警戒感が強い中、雇用情勢が予想以上に強いことが明らかになり、早期の利上げ懸念も強まる方向となっている。ハイテク株安の流れが全体相場にも影響を強めさせよう。

### 10年債利回りは上昇、強い米雇用統計でFRB利上げ観測が強まる

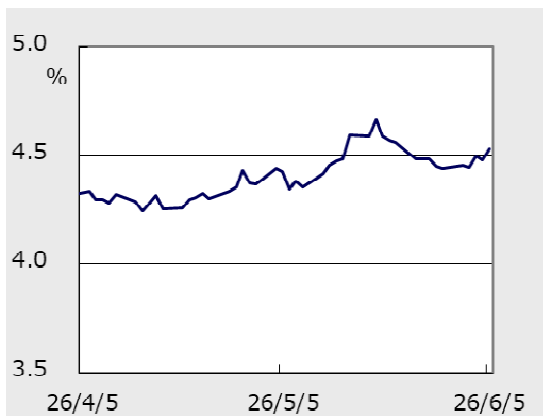
利回りは上昇。民間雇用関連の強い結果を受けて4.48%台を維持。4日はイスラエル・レバノンの停戦期待から小幅に低下したが、5日発表の5月雇用統計（非農業部門雇用者数17.2万人増、市場予想の2倍超）を受けてFRBの年内利上げ観測が一段と高まり、利回りは週末にかけて上昇した。

### 10年債、利回りは高止まりか、米CPIが材料に

利回りは高止まりか。強い雇用統計を受けてFRBの年内利上げ観測が強まっており、長期金利は下げ渋る展開が続くとみられる。今週は10日（水）に米5月CPI（消費者物価指数）の発表が予定されており、エネルギー高によるインフレ加速が確認されれば利回り上昇圧力となろう。

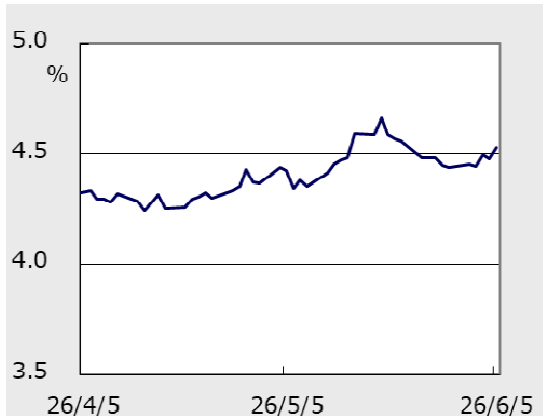
| 発表日   | 期間   | 指標名               |
|-------|------|-------------------|
| 6月09日 | 04月  | 貿易収支              |
| 6月09日 | 05月  | 中古住宅販売件数          |
| 6月09日 | 04月  | 卸売在庫              |
| 6月10日 | 05月  | 消費者物価指数           |
| 6月10日 | 05月  | 財政収支              |
| 6月11日 | 先週   | 新規失業保険申請件数        |
| 6月11日 | 05月  | 生産者物価指数           |
| 6月11日 | 1-3月 | 家計純資産変化           |
| 6月12日 | 06月  | ミシガン大消費者マインド指数速報値 |

### NYダウ平均



|          |               |    |
|----------|---------------|----|
| NYダウ週末終値 | 50866.78      | ドル |
| 想定レンジ    | 49800 ~ 50900 | ドル |

### 10年債利回り



|           |             |   |
|-----------|-------------|---|
| 10年国債週末終値 | 4.54        | % |
| 想定レンジ     | 4.45 ~ 4.65 | % |



## ユーロ圏CPIは前月から加速

欧州連合（EU）統計局が6月2日に発表した5月のユーロ圏消費者物価指数（CPI）は前年比3.2%の上昇となり、前月の3.0%から加速している。市場予想とは一致。エネルギーコストの上昇率が10.9%に達したほか、サービスインフレも加速している。コアインフレ率も、2.2%から2.5%に加速。

### ユーロ円はもみ合い、週初の上昇も米雇用統計後のユーロ売りで反落

もみ合い。週初（2日）は185円台半ばから始まり、リスク選好的なユーロ買い・円売りで高値186円台を付ける場面があった。しかし5日（金）の米雇用統計の発表後、FRBの利上げ観測が急速に高まり、ユーロ・ドルが2か月ぶりの安値圏へ急落したことで対円でもユーロ売りが進んだ。

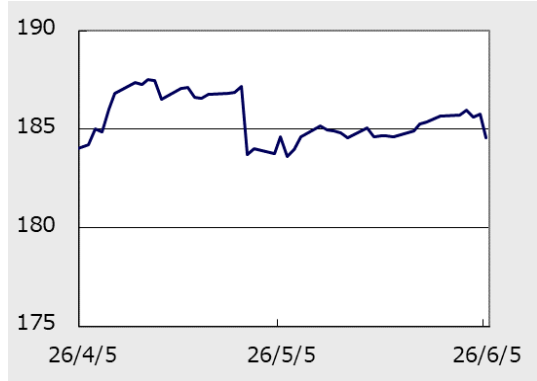
### ユーロ円、上値重い展開か、ECB利上げ後の材料出尽くし感に注意

上値重い展開か。6月11日（木）にECBが利上げを実施するとの見方が市場ではほぼ織り込まれており、利上げ後はユーロ買い材料の出尽くしが意識されやすい。ただしラガルド総裁の記者会見で追加利上げへの強いシグナルが発せられれば、ユーロ円の上昇につながる可能性もある。

### 経済指標発表予定

| 発表日   | 期間  | 指標名             |
|-------|-----|-----------------|
| 6月09日 | 04月 | 独・鉱工業生産指数       |
| 6月11日 |     | 欧・欧州中央銀行が政策金利発表 |
| 6月12日 | 05月 | 独・CPI           |
| 6月12日 | 04月 | 英・鉱工業生産指数       |
| 6月12日 | 04月 | 英・商品貿易収支        |

### ユーロ円



|          |                |
|----------|----------------|
| ユーロ円週末終値 | 184.70 円       |
| 想定レンジ    | 183.00 ~ 186 円 |



## ドイツ市場

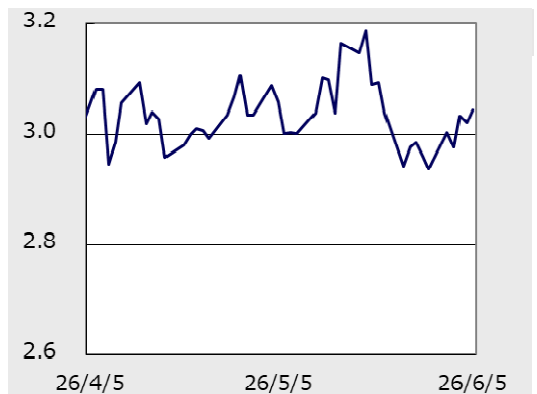
### 10年債利回りは上昇、中東和平交渉の停滞で

利回りは上昇。中東和平交渉の停滞に伴い、ホルムズ海峡の早期再開期待が後退している。インフレの長期化が意識され、欧州中央銀行（ECB）の年内利上げ回数見通しも引き上げられる方向となっているようだ。また、週末には雇用統計が大幅に上振れたことで米長期金利が上昇、ドイツ国債利回りも追随した。

### 10年債、今週は利回りは上昇か、ECB理事会に注目

利回りは上昇か。6月10日から11日にかけて欧州中央銀行（ECB）理事会が開催される。利上げの決定は織り込まれているが、インフレ懸念が拭えない中で、早期の追加利上げが示唆されるような状況となれば、ドイツ国債利回りには一段の上昇余地。目先は米国長期金利の上昇基調も想定される。

### ドイツ10年債利回り



|           |               |
|-----------|---------------|
| 10年国債週末終値 | 3.04 %        |
| 想定レンジ     | 2.90 ~ 3.30 % |

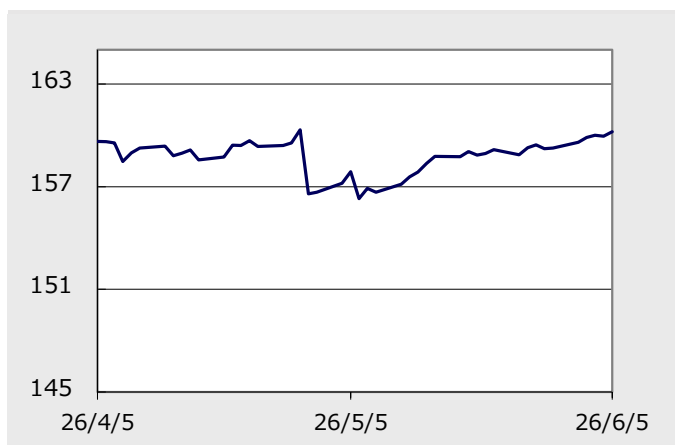
# ドル円 為替展望

ドル／円 今週の想定レンジ

157.50 ～ 160.50 円

## 今週の米ドル・円は伸び悩みか

今週の米ドル・円は伸び悩みか。米インフレ指標は一段の加速が予想される中、雇用情勢の予想外の改善を受けて、金融引き締め政策をにらんだドル買いが強まる見通し。米国とイランの停戦協議に進展がみられず、中東情勢の先行き不透明感から原油相場の高止まりが顕著であるため、インフレ圧力により米長期金利も上昇基調を維持し、ドル買いに振れやすい地合いが続く。ただ、160円台では為替介入が実施される可能性も高く、ドル・円の一段の上昇余地は限定的となろう。



ドル円週末終値 160.32 円

【米・5月消費者物価指数（CPI）】（6月10日発表予定）

10日発表の米5月消費者物価指数（CPI）は前年比+4.2%（5月+3.8%）、コア指数は同+2.9%（同+2.8%）と加速する見通しで、金融政策をにらみドル買いに振れやすい。

## 商品マーケット（金・原油）



NY  
金先物

週末終値  
4,365.30ドル

### 大幅下落、米長期金利の上昇で

大幅下落。中東和平交渉の停滞懸念で、金価格は上値の重い展開が続いたが、週末にかけて大幅下落の展開となる。米雇用統計では雇用者数が市場予想を大幅に上回り、これに伴ってドル高、米長期金利上昇につながった。ドルの代替資産となる金には売り圧力が強まる形となっている。



NY  
原油先物

週末終値  
90.54ドル

### 上昇、中東情勢不透明も週末にかけて上げ幅縮小

上昇。6月3日、イランがクウェート空港を攻撃したほか、米軍は報復として、イランのケシム島に攻撃を行ったと報じられ、週中にかけて上げ幅を拡大。その後、イスラエルとレバノンが停戦に合意したことや、オマーン石油開発が通常通りに稼働していると伝わったことで、紛争再燃懸念が後退、週末にかけて上げ幅を縮小した。



## 中国概況

China



### 5月の製造業とサービス業PMI、まちまちの結果

5月の製造業購買担当者景気指数（PMI）では、政府と民間統計がそれぞれ50.0、51.8となり、それぞれ前月の50.3、52.2を下回った。一方、政府と民間のサービス業PMIはそれぞれ50.1、54.4となり、それぞれ前月の49.4、52.6を上回った。なお、政府は各種対策を引き続き強めている。

#### 人民元は強含み、対円で米ドルに連れ高

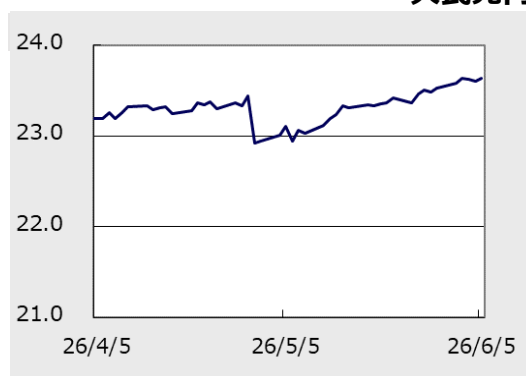
強含み。人民元は中国人民銀行（中央銀行）の設定する対米ドル基準値に基づいて売買されるため、米ドルとの間に連動性がある。その米ドルが米国・イラン交渉の先行き不透明感による有事の米ドル買いと予想以上に底堅い米労働市場の確認による年内の米利上げ観測の強まりから対円で強含み。人民元も追随し、週間で強含みに。

#### 人民元今週は横ばいか、円買い為替介入への警戒感が人民元買いに歯止め

横ばいか。米国の5月消費者物価指標などで米インフレ率の高止まりが意識されやすく、年内の米利上げ観測を緩やかに後押しするだろう。しかし、1米ドル＝160円台にあることで円買い為替介入が警戒されやすいとみる。対円で米ドルの上値が重くなり、人民元も追随した動きとなって横ばい推移となることを見込む。

| 発表日       | 期間  | 指標名          |
|-----------|-----|--------------|
| 6月09日     | 05月 | 貿易収支         |
| 6月09日-15日 | 05月 | マネーサプライ      |
| 6月09日-15日 | 05月 | 新規人民元建て融資    |
| 6月09日-15日 | 05月 | 資金調達総額       |
| 6月10日     | 05月 | 生産者物価指数（PPI） |
| 6月10日     | 05月 | 消費者物価指数（CPI） |

#### 人民元円

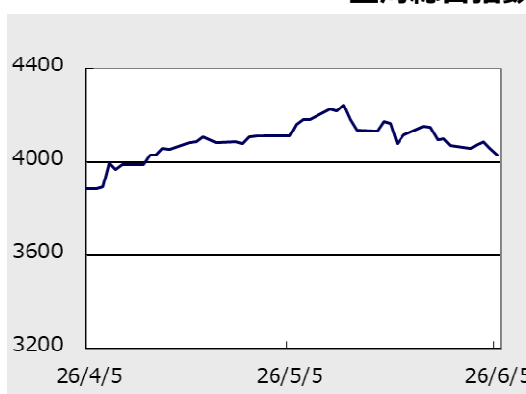


|          |                  |
|----------|------------------|
| 人民元円週末終値 | 23.69 円          |
| 想定レンジ    | 23.60 ~ 23.720 円 |

#### 上海総合指数は続落、上海総合は約1カ月半ぶりの安値

続落。上海総合指数は約1カ月半ぶりの安値水準まで落ち込んでいる。米ハイテク株安を受けて投資資金が関連銘柄から流出し、このところ上昇基調をたどっていた半導体株やハイテク関連株を中心に売りが広がった。また、米中経済指標の内容を見極めたいとのムードが強まり、新規の買いは限定的だった。半面、政策期待などが引き続き支援材料となった。

#### 上海総合指数



|            |                |
|------------|----------------|
| 上海総合指数先週終値 | 4027.74 Pt     |
| 想定レンジ      | 3950 ~ 4100 Pt |

## 香港市場

#### ハンセン市場は上値重いか、米利上げ警戒などが圧迫材料へ

上値重いか。年内の米利上げ警戒が圧迫材料となろう。香港域内が米金融政策に追随するため、売り圧力が強まる見通しだ。また、5月の中国の貿易収支などが発表されるため、見極めるムードも強まろう。ほかに、中東情勢の不透明感などが引き続きマイナス材料へ。半面、ハンセン指数が前週末に約2カ月ぶりの安値を更新しており、値ごろ感から買い戻しが優勢になる可能性がある。



## 豪州概況

Australia



### GDPは鈍化で市場予想も下振れ

豪統計局が6月3日に発表した第1四半期の国内総生産（GDP）は前期比0.3%増となり、前期の0.9%増からは鈍化した。市場予想の0.5%増も下回った。中東紛争や急速な金融引き締めを受けて家計支出が減少しつつあるようだ。

### 豪ドル円はもみ合いもやや弱含み、後半にかけてリスクオフで豪ドル売り

もみ合いもやや弱含み。週央にかけてはリスクオンムードの中で豪ドル買いが優勢の展開となった。ただ、その後は、米ハイテク株の軟化などを受けて、リスク選好通貨である豪ドルは軟化の方向に。日本銀行の6月利上げ観測が大きく台頭してきたことも豪ドル・円の売り材料となった。

### 豪ドル、今週はもみ合いか、世界的ハイテク株安の懸念で

もみ合いか。先週末には米ハイテク株が大幅安、今週もこうした流れが続くようであれば、リスク選好通貨である豪ドルの売り材料となりそう。また、来週の日銀金融政策委決定会合における利上げを織り込む動きなども、豪ドル・円の弱材料とされてこよう。豪ドル・円はもみ合いも弱含みの展開を想定する。

### 10年債利回りは反発、原油高への懸念再燃や米長期金利の反発で売り

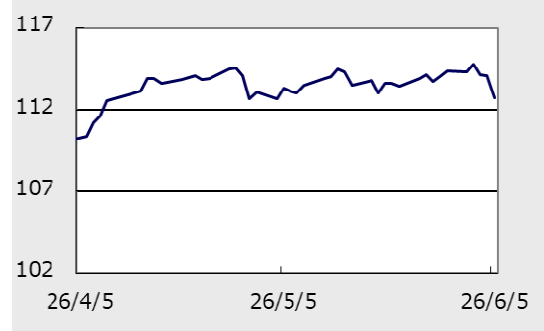
利回りは反発。イスラエルによるヒズボラ攻撃などで米国とイランの戦闘終結に向けた交渉の先行きに不透明感が戻り、原油高への懸念が再燃した。そこへ米国で労働市場の予想以上の底堅さを示唆する雇用関連指標が相次いで発表され、米長期金利が反発した。これらの材料で売りが優勢となり、豪国債利回りは週間で反発した。

### 10年債、今週は利回りは横ばいか、米国とイランの交渉の先行きを見守る

利回りは横ばいか。米国の雇用統計は予想以上に底堅い内容で年内の米利上げ観測が強まる方向となった。しかし、足下の豪国債市場の最大の注目材料は米国・イランの戦闘終結に向けた交渉と原油価格とみられる。豪国債市場は米国・イランの交渉と原油価格の先行きを見守る展開となり、利回りは上下に揺れ、週間で横ばいへ。

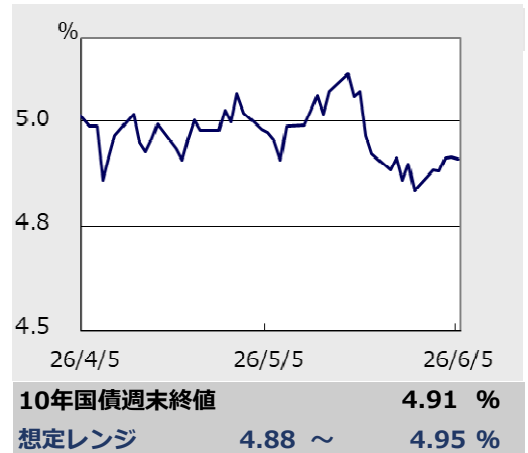
| 発表日  | 期間 | 指標名 |
|------|----|-----|
| 特になし |    |     |

### 豪ドル円



|          |                   |
|----------|-------------------|
| 豪ドル円週末終値 | 112.97 円          |
| 想定レンジ    | 112.00 ~ 113.50 円 |

### 豪州10年債利回り



|           |               |
|-----------|---------------|
| 10年国債週末終値 | 4.91 %        |
| 想定レンジ     | 4.88 ~ 4.95 % |



## ブラジル概況

Brazil



### 内需が幅広く景気をけん引

インフレ鈍化、利下げ、政府による可処分所得拡大策が相まって個人消費が力強く拡大している。政策金利は据え置かれているが、10月の大統領選を控え、再選を目指すルラ政権は燃料補助金の導入やその拡充、輸出関税の導入など、物価抑制に向けた財政支出を積極化している。

#### レアル円は続落、弱い経済指標や株安などで

続落。弱い経済指標が圧迫材料となった。4月の鉱工業生産の増加率（前年同月比）は前月の4.4%（改定値）から2.7%に低下。また、株式市場の下落もレアル需要を縮小させた。ほかに、中東情勢の不透明感がレアルなど新興国通貨の圧迫材料となった。半面、円安進行や原油高がレアルを下支えした。

#### レアル円、今週は弱含みか、米利上げ懸念や中東の不透明感で

弱含みか。年内の米利上げ懸念が浮上していることがレアルなど新興国通貨の圧迫材料となろう。また、中東情勢の不透明感も引き続き警戒される見通しだ。ほかに、景気の先行き不安などが引き続き意識されよう。半面、原油価格が続伸した場合、レアルのサポート材料となろう。

#### ボエスパ指数続落、中東情勢の不透明感や弱い経済指標を警戒

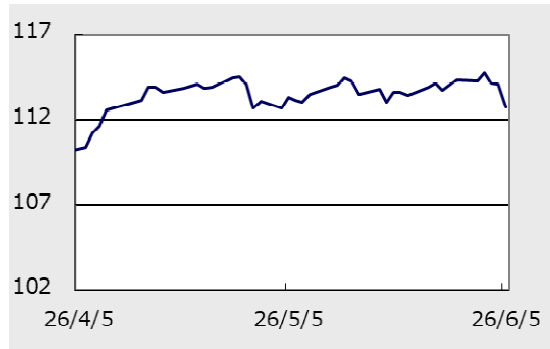
続落。中東情勢を巡る不透明感が解消されていないことがリスク回避の動きを加速させた。また、弱い経済指標も圧迫材料。4月の鉱工業生産の増加率（前年同月比）は前月の4.4%（改定値）から2.7%に低下した。ほかに、インフレ率の加速懸念などが利下げ期待を後退させた。半面、原油価格の上昇が資源の一角の物色手掛かりとなった。

#### ボエスパ指数、今週は上値重いか、米利上げ懸念が圧迫材料へ

上値重いか。年内の米利上げ懸念がブラジルなど新興国からの外資の流出懸念を高めよう。また、米イランの和平交渉が難航していることもリスク志向を後退させる見通しだ。ほかに、弱い経済指標が引き続きマイナス材料になる公算も。半面、原油価格が続伸した場合、資源の一角に買いが広がる可能性がある。

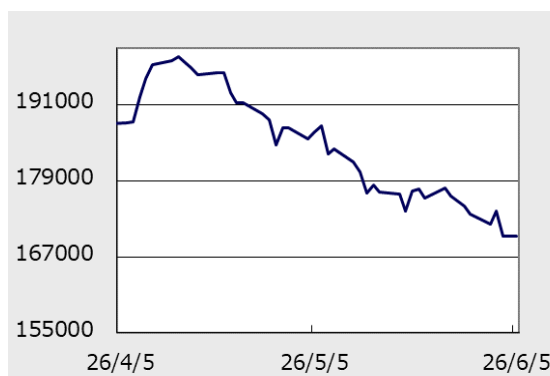
| 発表日   | 期間  | 指標名             |
|-------|-----|-----------------|
| 6月12日 | 05月 | I B G E 消費者物価指数 |

#### レアル円



|          |                   |
|----------|-------------------|
| レアル円週末終値 | 31.01 円           |
| 想定レンジ    | 30.308 ~ 31.708 円 |

#### ボエスパ指数



|            |                    |
|------------|--------------------|
| ボエスパ指数先週終値 | 169019.12 Pt       |
| 想定レンジ      | 165420 ~ 172620 Pt |



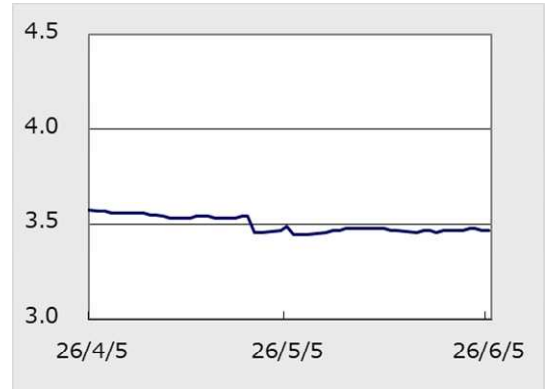
## 横ばい、高インフレと利下げ見送り観測

軟調。3月以降、断続的にリラ買い介入を行なっている。オゼル党首に対する職務停止処分などを受けて、リラの買い支えをさらに強化。6月11日の次回金融政策決定会合で、通貨防衛の一環として利上げを行なう可能性もあるようだ。ただ、リラ買いは限定的で、対円レートは上値の重い展開が続いた。

### トルコリラ、今週は上値の重い展開か、政策金利の動向に注目

上値の重い展開か。6月11日の金融政策決定会合では政策金利の利上げ可能性もあり、高金利がリラを下支えする一方、高インフレや中東情勢の不透明感がリラ買いを抑制する。米ドル・円が円安方向に振れば対円では底堅さも見込めるが、戻りでは売りが出やすく、一段高は限定的とみられる。

トルコリラ円



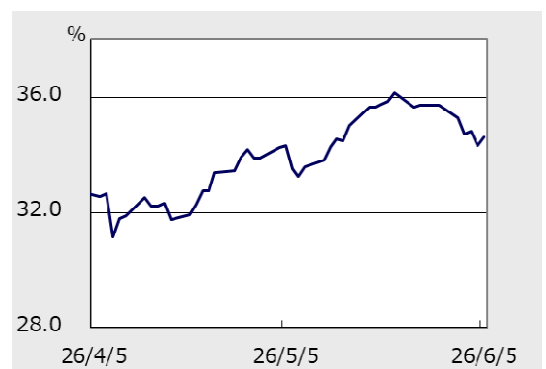
### 10年債利回りは低下、中銀の利下げサイクル継続観測と原油安

利回りは低下した。トルコ中央銀行は昨年後半から利下げサイクルに入っており、政策金利の低下に伴って長期金利にも低下圧力がかかっている。週間を通じて米イランの停戦交渉をめぐる地政学リスクへの警戒は残ったものの、原油価格の上昇一服がインフレ期待の落ち着きにつながり、国債買いが優勢となった。

### 10年債利回りは弱含みか、中銀の利下げ再開期待

利回りは弱含みか。トルコ中央銀行は中東情勢が安定すれば利下げサイクルを再開する見通しで、長期金利には低下圧力がかかりやすい。今週はECBの利上げ（11日）が予想されており、グローバルな金利上昇が新興国債券の重しとなる局面も想定されるが、トルコ固有の利下げ観測がそれを一定程度相殺しよう。

トルコ10年債



### 病院運営IHH、トルコ事業は通常通り=中東紛争は影響せず—マレーシア

5月25日の経済ニュースサイトのエッジ・マレーシアによると、マレーシアの病院運営会社で三井物産が出資するIHHヘルスケアは、トルコでの事業は中東紛争の影響を受けておらず、病院はフル稼働を続けていると明らかにした。IHHは主に90%出資するアジバDEM・ヘルスケア・グループを通じてトルコで病院運営を手掛けている。IHHのプレム・クマル・ナイル最高経営責任者（CEO）はこのほど開催された年次株主総会後の記者会見で、「トルコでの事業は中東からの患者流入には多少影響があるかもしれないが、欧州など多様な患者基盤が影響を緩和している」と指摘。「トルコは成長を続けており、当社の事業に大きく貢献している」と述べた。IHHの年次報告書によると、2025年12月期の売上高は257億4500万リンギ（約1兆0300億円）で、このうち約3分の1をトルコ・欧州が占め、以下、シンガポール23%、マレーシア19%、インド16%と続く。トルコは高齢化が進み、より高度で複雑な医療サービスへの需要が高まっていることから、IHHは買収や施設改修を通じて事業の拡大に取り組んでいるという。（時事）(C)時事通信社



## ロシア概況

Russia



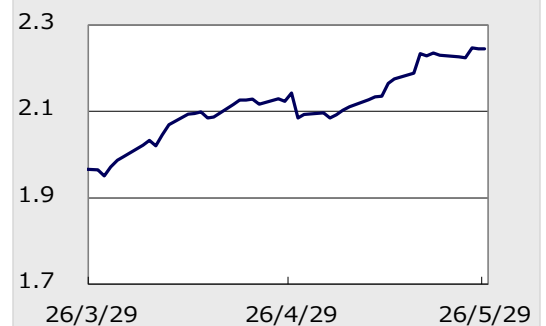
### 反落、地政学リスクの高まりが圧迫材料

反落。ウクライナ和平案協議の難航など地政学的リスクの高まりがルーブルの圧迫材料となった。また、株式市場の下落もルーブル需要を縮小させた。半面、原油価格の上昇がルーブルをサポートした。また、堅調な経済指標も景気の先行き不安をやや緩和させた。

#### ルーブル円、今週は弱含みか、米利上げ懸念やウクライナ情勢の膠着で

弱含みか。米利上げ懸念が浮上していることがルーブルなど新興国通貨の圧迫材料となろう。また、ウクライナや中東情勢の膠着もリスク回避志向を高める見通しだ。半面、原油価格が続伸した場合、ルーブルの買いが広がる公算も。また、景気不安がやや後退していることも引き続き好感されよう。

#### ルーブル円



|              |                 |
|--------------|-----------------|
| ロシアルーブル円週末終値 | 2.17 円          |
| 想定レンジ        | 2.115 ~ 2.235 円 |

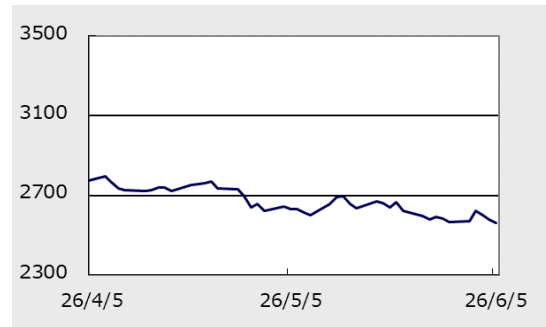
#### MOEXロシア指数、弱含み、ウクライナ和平案協議の膠着などで

弱含み。ウクライナ和平案協議の膠着や中東情勢の不透明感が投資家のリスク志向を後退させた。半面、指数の下値は限定的。原油価格の上昇がウエートの高い資源銘柄の物色手掛かりとなった。また、堅調な経済指標も景気不安をやや後退させた。4月の小売売上高の増加率（前年同月比）は6.5%となり、前月の6.2%と予想の5.2%を上回った。

#### MOEXロシア指数、上値重いか、地政学リスクや米利上げ懸念で

上値重いか。ウクライナや中東の不透明感など地政学的リスクの高まりが引き続き意識されよう。また、年内の米利上げ懸念が浮上していることが外資の流出懸念を強める可能性がある。半面、原油価格が一段と上昇した場合、資源の一角に買いが広がる公算も。また、景気不安がやや後退していることも指数をサポートする見通しだ。

#### MOEXロシア指数



|               |                |
|---------------|----------------|
| MOEXロシア指数先週終値 | 2561.28 Pt     |
| 想定レンジ         | 2500 ~ 2620 Pt |

#### 欧米接近の首相にロシア圧力=アルメニア議会選まで1週間

6月7日投票の旧ソ連構成国アルメニアの議会選(一院制、任期5年)まで1週間。パシニャン首相は欧米との連携強化を急速に進め、続投を狙う。アルメニアを「勢力圏」と見なすロシアは離反に猛反発しており、エネルギー面の優遇を見直す可能性を示唆。緊張が高まる中での選挙となる。選挙戦の最大の争点は対外政策だ。パシニャン氏率いる与党「市民契約党」は欧米重視だが、野党はロシアとの関係維持を訴える。今月22日公表の世論調査によると、与党の支持率は約29%で、最大の野党連合「強いアルメニア」の約15%をリード。ただ、2021年の前回選挙で市民契約党は単独で過半数を得ており、人気に陰りも見える。アルメニアの「ロシア離れ」は、20年以降に再燃した隣国アゼルバイジャンとの領土紛争の敗北が契機となった。プーチン政権から支援を得られず不満を募らせたパシニャン氏は、ロシア主導の軍事同盟「集団安全保障条約機構(CSTO)」の脱退を宣言した。ロシアに代わり、連携を深めているのがトランプ米政権だ。アルメニアとアゼルバイジャンは25年8月、米国の仲介で和平に向けた共同宣言に署名。アゼルバイジャン本土と飛び地をアルメニア経由で結ぶ輸送回廊「トランプ・ルート」の建設や、重要鉱物の供給に関する協力でも合意した。アルメニアは欧州連合(EU)への接近も進め、ロシア側は激しく反発している。(後略)(時事)(C)時事通信社



## インド概況

India



### 1-3月期のGDP成長率は7.8%、予想上振れ

1-3月期の国内総生産（GDP）成長率は前期から横ばいの7.8%となり、予想の7.3%を上回った。2026年度のGDP成長予想も前回調査の7.6%から7.7%に引き上げられている。一方、インド準備銀行（中央銀行）は6月5日、政策金利を5.25%に据え置くと発表した。

| 発表日   | 期間       | 指標名     |
|-------|----------|---------|
| 6月12日 | 05月      | 消費者物価指数 |
| 6月13日 | 5/30-6/5 | 外貨準備高   |

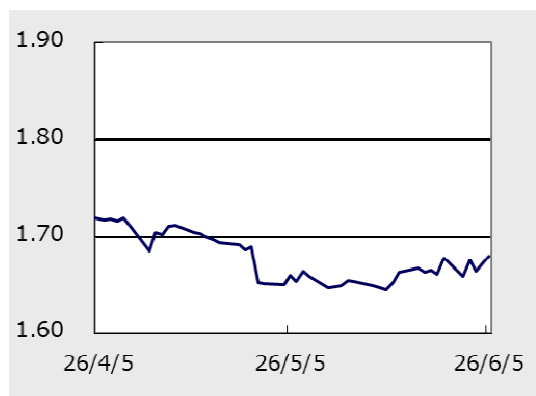
### インドルピー円は堅調、実質GDP7.7%増で高成長維持

堅調。インド準備銀行（中央銀行）は6月5日、主要政策金利であるレポ金利を5.25%に据え置いた。ただ、2025年度の実質GDPは24年度比7.7%増に加速。人口増を背景にした堅調な消費とインフラ投資が景気を支えており、インドルピー・円買いが集まり、底堅く推移した。対ドルでの円安進行も追い風に。

### インドルピー円、今週は底堅い推移か、原油安効果が下支え

底堅い推移か。インドの堅調な経済成長が引き続き中長期的なルピーの支援材料となろう。また、原油価格の下落が原油輸入国インドの経済にプラスに働くとみられ、ルピー買いの背景となりそう。ただ、日本銀行の利上げ観測などから円が買われる局面では、ルピーの対円での上昇は鈍化する可能性がある。

### インドルピー円

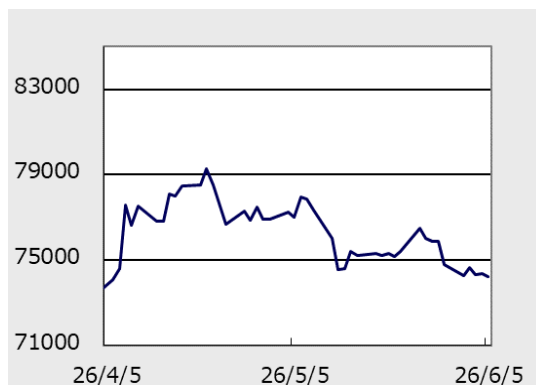


|             |               |
|-------------|---------------|
| インドルピー円週末終値 | 1.676 円       |
| 想定レンジ       | 1.64 ~ 1.69 円 |

### SENSEX指数弱含み、企業業績の伸び悩みや中東情勢の不透明感で

弱含み。企業業績の伸び悩みが意識され、主要上場企業の利益成長鈍化への懸念を受けて売りが優勢となった。また、中東情勢の不透明感もリスク志向を抑制した。半面、米印通商交渉が最終段階に入り、協議の大半が完了したと伝わったことが指数をサポート。また、外資の流入が加速しているとの報告も好感された。

### SENSEX指数



### SENSEX指数、今週は底堅いか、GDPの上振れが支援材料へ

底堅い。国内総生産（GDP）の上振れが支援材料となろう。1-3月期のGDP成長率は7.8%となり、予想の7.3%を上回った。また、ハイテク関連への買いが再び高まれば、続伸も。半面、米イランの和平交渉が難航していることなど中東情勢の不透明感が引き続き嫌気されよう。また、国内のインフレ加速懸念も引き続き意識される可能性がある。

|              |                  |
|--------------|------------------|
| SENSEX指数先週終値 | 74243.34 Pt      |
| 想定レンジ        | 72840 ~ 75640 Pt |

# 日本株 注目スクリーニング

## AI関連株の調整で資金シフト期待の出遅れ大型株

### ■ SOX指数の急落でAI関連株には調整圧力

先週末の米国市場ではSOX指数が10%超の急落となっており、今週は東京市場でもAI・半導体関連には売り圧力が強まっていくとみられる。AI関連一極集中相場の中で放置されてきた銘柄にスポットが向かって行く可能性は高いとみられる。4月以降の株価パフォーマンスがマイナスで、かつ、前期実績、今期見通しともに2ケタ営業増益予想である大型株などにリバウンドへの関心を高めたい。

スクリーニング要件としては、①3月末比の株価騰落率がマイナス、②前期実績、今期見通しともに2ケタの営業増益、③時価総額が5000億円以上。

### ■ 業績好調な株価出遅れ銘柄

| コード  | 銘柄             | 市場   | 6/5株価<br>(円) | 時価総額<br>(億円) | 株価騰落率<br>(%) | 配当利回り<br>(%) | 予想<br>1株利益<br>(円) |
|------|----------------|------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------------|
| 1803 | 清水建設           | プライム | 2,514.5      | 18021.1      | -9.31        | 3.06         | 191.40            |
| 1808 | 長谷工コーポレーション    | プライム | 2,654.0      | 7762.4       | -8.02        | 3.77         | 249.39            |
| 2331 | ALSOK          | プライム | 1,073.5      | 5477.0       | -14.12       | 3.07         | 76.75             |
| 3003 | ヒューリック         | プライム | 1,656.0      | 12716.6      | -9.48        | 4.05         | 159.41            |
| 3197 | すかいらーくHD       | プライム | 2,643.0      | 6012.9       | -22.38       | 0.98         | 85.71             |
| 3289 | 東急不動産HD        | プライム | 1,288.0      | 9271.4       | -2.79        | 3.88         | 140.02            |
| 3391 | ツルハHD          | プライム | 1,986.5      | 9024.9       | -19.92       | 2.42         | 91.62             |
| 3769 | GMOペイメントゲートウェイ | プライム | 8,007.0      | 6130.0       | -2.40        | 2.12         | 308.58            |
| 4452 | 花王             | プライム | 5,921.0      | 26857.7      | -4.16        | 2.64         | 143.70            |
| 5110 | 住友ゴム工業         | プライム | 1,982.5      | 5214.8       | -1.93        | 4.24         | 209.26            |
| 7013 | IHI            | プライム | 2,574.0      | 27870.2      | -17.97       | 0.89         | 155.09            |
| 7649 | スギHD           | プライム | 2,850.5      | 5415.8       | -17.99       | 1.23         | 181.24            |
| 7951 | ヤマハ            | プライム | 1,097.0      | 5079.1       | -0.54        | 2.37         | 63.65             |
| 8267 | イオン            | プライム | 1,354.5      | 37702.9      | -28.12       | 1.11         | 26.39             |
| 9435 | 光通信            | プライム | 36,890.0     | 16227.9      | -7.17        | 2.11         | 2738.32           |
| 9697 | カプコン           | プライム | 2,885.0      | 15377.4      | -13.83       | 1.59         | 138.65            |

(注) 株価騰落率は3月末比

出所: フィスコアプリより作成

# 日本株 注目カテゴリー

## テーマ別分析：電力需給調整の要、系統用蓄電池関連銘柄を整理

### ■再エネ普及とAI需要を背景に系統用蓄電池市場が拡大局面

生成AIの普及に伴うデータセンター投資拡大を背景に、電力インフラ関連への関心が高まりつつある。再生可能エネルギーの導入拡大が進む一方で、安定供給に向けた需給調整の重要性も増しており、その中核を担う系統用蓄電池市場は成長局面を迎えつつある。政府は系統用蓄電池などの電力貯蔵システム導入支援を強化しているほか、国内でも大型案件の開発に向けた動きが広がっている。AI時代の電力需要拡大を支える分野として注目が集まっており、主な関連銘柄を下表のとおり整理した。

### ■主な「系統用蓄電池」関連銘柄

| コード  | 銘柄略称    | 市場     | 6/5<br>株価<br>(円) | 概要                                   |
|------|---------|--------|------------------|--------------------------------------|
| 1407 | ウエストHD  | スタンダード | 2478             | 系統用蓄電所の開発・運営を主力事業として拡大中。             |
| 1942 | 関電工     | プライム   | 5854             | 系統用・産業用蓄電池向けの電気設備工事を幅広く展開。           |
| 1944 | きんでん    | プライム   | 6621             | 送変電など電力インフラ工事を主軸に蓄電池案件も対応。           |
| 1963 | 日揮HD    | プライム   | 2645.5           | EPC(設計・調達・建設)大手として系統用蓄電池の設置・建設工事に対応。 |
| 5802 | 住友電気工業  | プライム   | 13010            | 大型長寿命のレドックスフロー電池を国内外で展開。             |
| 6504 | 富士電機    | プライム   | 15325            | 電力変換技術で蓄電池市場拡大の恩恵期待。                 |
| 6508 | 明電舎     | プライム   | 9820             | 系統連系向けPCSを軸に蓄電池システム全体をソリューション提供。     |
| 6622 | ダイヘン    | プライム   | 16200            | 系統連系用変圧器・変換装置で蓄電池の大型案件に対応。           |
| 6645 | オムロン    | プライム   | 6162             | 家庭用から産業用まで蓄電池向けパワーコンディショナを展開。        |
| 6653 | 正興電機    | プライム   | 2535             | 電力会社と連携し系統用蓄電池システムの共同開発を推進。          |
| 6674 | GSユアサ   | プライム   | 7280             | 系統用蓄電所の事業開発を推進。                      |
| 6996 | ニチコン    | プライム   | 4375             | 家庭用・産業用蓄電池システム事業を拡大。                 |
| 9513 | 電源開発    | プライム   | 3959             | 系統安定化に向けた大規模蓄電池事業を推進。                |
| 9519 | レノバ     | プライム   | 1026             | 再エネと系統用蓄電池事業を拡大。                     |
| 485A | パワーエックス | グロース   | 2889             | 系統用大型蓄電池と蓄電船(Power ARK)で独自モデルを展開。    |

出所：フィスコ作成

# 日本株 注目銘柄1

## MonotaRO〈3064〉プライム

### 工場などの間接資材をネット販売、第1四半期営業利益は22.6%増

■取扱商品は2888万点、口座数は1153.6万口座

工場・工事用、自動車整備用などの間接資材（工場消耗品や工具など）をネット販売する。複数の部門や拠点を持つ中堅・大企業向けに発注元・調達先をシステムで一元管理する「エンタープライズモノタロウ」も展開する。取扱商品は2888万点、在庫点数は68.4万点、登録口座数は1153.6万口座（26年3月末単体）。顧客は製造業が32%を占め、建設業・工事業が19%、自動車関連が10%など（25年12月期売上高ベース）。物流センターを茨城県と兵庫県に設置し、午後5時までに注文を受けた商品が在庫品である場合、原則、注文当日に出荷し、顧客は翌日に商品を受け取ることができることなどが強みとなっている。

■石油由来原材料商品の需要が増加

26年12月期第1四半期売上高は955.82億円（前年同期比20.8%増）、営業利益は131.70億円（同22.6%増）。3月後半から、売上高の約45%を占める石油由来原材料商品の需要増による売上押し上げ効果が出ている。26年12月期通期売上高は3813.79億円（前期比14.2%増）、営業利益は530.69億円（同14.9%増）予想。

#### ★リスク要因

ナフサ由来製品の調達難など。

|       |        |
|-------|--------|
| 売買単位  | 100 株  |
| 6/5終値 | 1885 円 |
| 業種    | 小売     |

#### ■テクニカル分析



3064：日足

4月以降は下値が堅くなりつつあるもよう。

(百万円)

| 会計期       | 売上高     | 前期比   | 営業利益   | 経常利益   | 前期比   | 当期利益   | 1株益(円) |
|-----------|---------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 2022/12連  | 225,970 | 19.1% | 26,213 | 26,398 | 8.6%  | 18,658 | 37.55  |
| 2023/12連  | 254,286 | 12.5% | 31,309 | 31,538 | 19.5% | 21,813 | 43.90  |
| 2024/12連  | 288,119 | 13.3% | 37,066 | 37,320 | 18.3% | 26,338 | 53.01  |
| 2025/12連  | 333,880 | 15.9% | 46,192 | 46,057 | 23.4% | 32,434 | 65.27  |
| 2026/12連予 | 381,379 | 14.2% | 53,069 | 52,789 | 14.6% | 36,180 | 72.81  |

# 日本株 注目銘柄2

## 野村総合研究所〈4307〉プライム

### 金融や産業向けITソリューションなど提供、今期業績は急回復予想

#### ■ 厚い顧客基盤などが強み

1965年に日本初の本格的な民間総合シンクタンクとして誕生した「旧野村総合研究所」と、1966年に野村証券計算部から独立した「野村コンピューターシステム」が、1988年に合併して誕生。現在の事業は、証券や保険・銀行向けの「金融ITソリューション」が売上収益（売上高）の41%を占め、製造・サービス業向けなどの「産業ITソリューション」が29%、「IT基盤サービス」が23%、官民の戦略策定・政策立案支援の「コンサルティング」が7%となっている。この中で、例えば、金融機関の共同利用型サービスでは、銀行向けの利用社が109社、リテール証券向けが86社（24年3月末）など、厚い顧客基盤が同社の強みの一つとなっている。

#### ■ 国内事業の成長志向へ

26年3月期売上収益は8147.08億円（前期比6.5%増）、営業利益は582.73億円（同56.8%減）。国内事業の収益性は向上したが、豪州・北米事業ののれん等に係る減損損失により大幅減益となった。27年3月期通期売上収益は8500億円（前期比4.3%増）、営業利益は1750億円（同3.0倍）予想。国内事業を中心とした成長を志向し収益力の向上を目指す。

#### ★ リスク要因

企業のIT投資の動向など。

|       |        |
|-------|--------|
| 売買単位  | 100 株  |
| 6/5終値 | 4882 円 |
| 業種    | 情報・通信  |

#### ■ テクニカル分析



4307：日足

3月以降は徐々に水準を切り上げる展開。

(百万円)

| 会計期       | 売上高     | 前期比   | 営業利益    | 経常利益    | 前期比    | 当期利益    | 1株益(円) |
|-----------|---------|-------|---------|---------|--------|---------|--------|
| 2023/3連I  | 692,165 | 13.2% | 111,832 | 108,499 | 3.7%   | 76,307  | 128.92 |
| 2024/3連I  | 736,556 | 6.4%  | 120,411 | 117,224 | 8.0%   | 79,643  | 136.90 |
| 2025/3連I  | 764,813 | 3.8%  | 134,907 | 134,161 | 14.4%  | 93,762  | 163.57 |
| 2026/3連I  | 814,708 | 6.5%  | 58,273  | 58,851  | -56.1% | 15,257  | 26.62  |
| 2027/3連I予 | 850,000 | 4.3%  | 175,000 | 177,000 | 200.8% | 119,000 | 207.17 |

# 日本株 注目銘柄3

## 日本空調サービス〈4658〉プライム

### 前期業績は会社想定を上振れて着地、配当利回り3.7%超

#### ■独立系の建物設備メンテナンス企業

建物設備メンテナンスを祖業とする独立系の専門企業で、空調・衛生・電気などの設備の保守・維持管理に、リニューアル工事までを一体で提供する。26年3月期は、売上高692.45億円（前期比7.5%増）、営業利益47.58億円（同13.5%増）で着地した。競争環境の緩和や採算性の良い案件の獲得、高品質サービスの提供を前提とした適正価格での受注が奏功したこと等で、予想を上回る結果となった。27年3月期通期売上高は740億円（前期比6.9%増）、営業利益は53億円（同11.4%増）を見込む。省エネや省コスト等に関する潜在ニーズを掘り起こしていく。

#### ■新たに「2026中期4カ年経営計画」をスタート

同社は新たに「2026中期4カ年経営計画」をスタート、30年3月期に売上高900億円、営業利益72億円、営業利益率8.0%を目標として掲げる。特に製造工場等を中心に暑熱対策需要の拡大のほか、顧客の設備投資需要に対して供給サイドが不足している状況の継続が追い風となる。株主還元は累進配当を採用し、予想配当利回りは3.7%で推移。

#### ★リスク要因

不安定な国際情勢や物価上昇など。

|       |        |
|-------|--------|
| 売買単位  | 100 株  |
| 6/5終値 | 1533 円 |
| 業種    | サービス   |

#### ■テクニカル分析



4658：日足

レンジ内での横ばい推移継続。

| (百万円)    |        |       |       |       |       |       |        |
|----------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 会計期      | 売上高    | 前期比   | 営業利益  | 経常利益  | 前期比   | 当期利益  | 1株益(円) |
| 2023/3連  | 52,886 | 6.0%  | 2,847 | 3,051 | 8.9%  | 1,940 | 56.67  |
| 2024/3連  | 58,232 | 10.1% | 3,630 | 3,863 | 26.6% | 2,725 | 79.40  |
| 2025/3連  | 64,438 | 10.7% | 4,191 | 4,373 | 13.2% | 3,102 | 89.98  |
| 2026/3連  | 69,245 | 7.5%  | 4,758 | 5,108 | 16.8% | 3,696 | 106.79 |
| 2027/3連予 | 74,000 | 6.9%  | 5,300 | 5,600 | 9.6%  | 3,900 | 112.52 |

# 日本株 注目銘柄4

## 日本製鉄〈5401〉プライム

### 今期増収増益見通し、配当4%・PBR1倍割れの割安成長株

#### ■USスチールのシナジー効果が発現

国内最大手かつ世界有数の鉄鋼メーカー。26年3月期の売上収益は10兆632.16億円（前期比15.7%増）、事業利益は5141.28億円（同24.8%減）と計画を上回って着地した。関税の影響を含む環境悪化や、トラブル・一過性の影響がある中で、国内製鉄所のコスト改善やグループ会社の改善努力が寄与。27年3月期通期売上収益は11兆円（前期比9.3%増）、事業利益は5300億円（同3.1%増）を見込む。USスチールのシナジーを中心とする収益改善施策の効果が発揮される想定となる。実力ベース事業利益7000億円以上の確保を図る。

#### ■幅と厚みを持つ強靱な事業構造へ

ただ、同社はUSスチール買収により、グローバルな広がりや世界トップクラスの規模を持つグループへと進化。中長期的な成長に向けて、「グローバル粗鋼生産能力1億トン」「事業利益1兆円」を掲げており、幅と厚みを持つ強靱な事業構造へ進化させる。ほか、株主還元は、業績に応じた配当として連結配当性向30%程度を目安としている。

#### ★リスク要因

USスチール統合効果の剥落など。

|       |       |
|-------|-------|
| 売買単位  | 100 株 |
| 6/5終値 | 547 円 |
| 業種    | 鉄鋼    |

#### ■テクニカル分析



5401：日足

2月の下落以降、さえない値動き続く。

| (百万円)     |            |       |         |         |        |         |        |
|-----------|------------|-------|---------|---------|--------|---------|--------|
| 会計期       | 売上高        | 前期比   | 営業利益    | 経常利益    | 前期比    | 当期利益    | 1株益(円) |
| 2023/3連I  | 7,975,586  | 17.1% | 883,646 | 866,849 | 6.2%   | 694,016 | 753.66 |
| 2024/3連I  | 8,868,097  | 11.2% | 778,662 | 763,972 | -11.9% | 549,372 | 596.59 |
| 2025/3連I  | 8,695,526  | -1.9% | 547,960 | 524,377 | -31.4% | 350,227 | 350.92 |
| 2026/3連I  | 10,063,216 | 15.7% | 242,903 | 172,814 | -67.0% | 17,158  | 3.28   |
| 2027/3連I予 | 11,000,000 | 9.3%  | -       | -       | -      | 220,000 | 42.00  |

# 日本株 注目銘柄5

## ジーエス・ユアサ コーポレーション〈6674〉プライム

### 上場来高値更新、防衛・AI関連需要を追い風に上昇基調続く

#### ■自動車・産業用電池で国内トップクラス

自動車用鉛蓄電池や車載用リチウムイオン電池、産業用電池電源を手掛ける国内最大級の電池メーカー。国内自動車用鉛蓄電池市場では高いシェアを持ち、アジアでも強固な販売網を構築している。事業は自動車電池、産業電池電源、車載用リチウムイオン電池が中心で、近年はESS（蓄電システム）やAIデータセンター向け非常用電源、防衛・宇宙分野向け特殊電池も拡大している。特に潜水艦やミサイル向け電池を供給できる数少ない国内企業であり、安全保障関連銘柄としての側面も持つ。

#### ■ESS・AIデータセンター・防衛需要が追い風

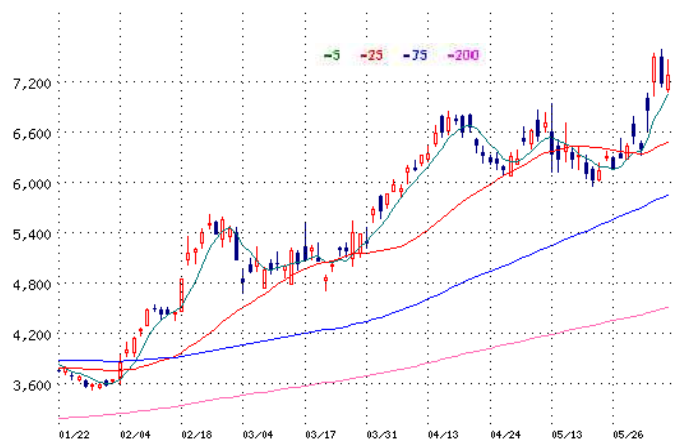
26年3月期は前期比増収増益で着地した。産業電池電源事業ではAIデータセンターや電力インフラ向け非常用電源需要が拡大し、車載用リチウムイオン電池もHEV向け販売増加により黒字化が進展した。27年3月期通期売上高は6600億円（前期比8.4%増）、営業利益は600億円（同0.3%減）予想。第7次中期経営計画ではESS売上高を25年度の約150億円から700～1500億円規模へ拡大する方針を掲げるほか、防衛関連設備にも約200億円を投資し生産能力を3～4倍へ引き上げる計画だ。

#### ★リスク要因

HEV市場の成長鈍化、原材料価格の上昇など。

|       |        |
|-------|--------|
| 売買単位  | 100 株  |
| 6/5終値 | 7280 円 |
| 業種    | 電気機器   |

#### ■テクニカル分析



6674：日足

各移動平均線を上回る強い値動き。

(百万円)

| 会計期      | 売上高     | 前期比   | 営業利益   | 経常利益   | 前期比   | 当期利益   | 1株益(円) |
|----------|---------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 2023/3連  | 517,735 | 19.8% | 31,500 | 24,213 | -1.9% | 13,925 | 173.11 |
| 2024/3連  | 562,897 | 8.7%  | 41,595 | 43,981 | 81.6% | 32,064 | 369.74 |
| 2025/3連  | 580,340 | 3.1%  | 50,028 | 46,345 | 5.4%  | 30,416 | 303.25 |
| 2026/3連  | 608,995 | 4.9%  | 60,172 | 58,229 | 25.6% | 41,863 | 417.33 |
| 2027/3連予 | 660,000 | 8.4%  | 60,000 | 56,000 | -3.8% | 36,000 | 358.88 |

| 日付    | 曜日 | 時間    | 内容                                             | 市場コンセンサス  | 前回数値        |
|-------|----|-------|------------------------------------------------|-----------|-------------|
| 6月9日  | 火  | 08:50 | マネーストック(5月)                                    |           |             |
|       |    | 15:00 | 工作機械受注(5月)                                     |           | 45.1%       |
|       |    | 08:00 | 韓・GDP(1-3月)                                    | 3.6%      | 3.6%        |
|       |    | 15:00 | 独・鉱工業生産指数(4月)                                  |           | -0.7%       |
|       |    | 17:00 | ブ・FIPE消費者物価指数(先週)                              |           | 0.4%        |
|       |    | 18:00 | 南ア・GDP(1-3月)                                   |           | 0.8%        |
|       |    | 20:00 | ブ・FGVインフレ率(IGP-DI)(5月)                         |           | 2.41%       |
|       |    | 21:15 | 米・ADP民間雇用者数(先週)                                |           | 3,575万件     |
|       |    | 21:30 | 米・貿易収支(4月)                                     | -555億ドル   | -603億ドル     |
|       |    | 21:30 | 加・貿易収支(4月)                                     | 20.0億加ドル  | 17.8億加ドル    |
|       |    | 23:00 | 米・中古住宅販売件数(5月)                                 | 0.9%      | 0.2%        |
|       |    | 23:00 | 米・卸売在庫(4月)                                     |           | 0.5%        |
|       |    |       | 中・貿易収支(5月)                                     | 886.0億ドル  | 848.2億ドル    |
|       |    |       | 中・資金調達総額(5月、15日までに)                            | 17兆1500億元 | 15兆4500億元   |
|       |    |       | 中・マネーサプライ(5月、15日までに)                           |           |             |
|       |    |       | 中・元建て新規貸出残高(5月、15日までに)                         | 9兆600億元   | 8兆5900億元    |
| 6月10日 | 水  | 08:50 | 国内企業物価指数(5月)                                   | 0.9%      | 2.3%        |
|       |    | 10:30 | 中・消費者物価指数(5月)                                  | 1.3%      | 1.2%        |
|       |    | 10:30 | 中・生産者物価指数(5月)                                  | 3.9%      | 2.8%        |
|       |    | 21:30 | 米・消費者物価指数(5月)                                  | 0.5%      | 0.6%        |
|       |    | 22:45 | 加・カナダ銀行(中央銀行)が政策金利発表                           | 2.25%     | 2.25%       |
|       |    | 27:00 | 米・財政収支(5月)                                     |           | 2150億ドル     |
| 6月11日 | 木  | 08:50 | 景況判断BSI大企業製造業(4-6月)                            |           | 3.8         |
|       |    | 08:50 | 景況判断BSI大企業全産業(4-6月)                            |           | 4.4         |
|       |    | 08:50 | 対外・対内証券投資(先週)                                  |           |             |
|       |    | 10:10 | 国債買い入れオペ(残存1-3年、残存3-5年、残存5-10年、残存10-25年)(日本銀行) |           |             |
|       |    | 11:00 | 東京オフィス空室率(5月)                                  |           | 2.2%        |
|       |    | 20:00 | トルコ・中央銀行が政策金利発表                                | 37.00%    | 37.00%      |
|       |    | 21:00 | ブ・IBGEサービス部門売上高(4月)                            |           | -1.2%       |
|       |    | 21:15 | 欧・欧州中央銀行(ECB)が政策金利発表、ラガルド総裁が記者会見               | 2.40%     | 2.15%       |
|       |    | 21:30 | 米・新規失業保険申請件数(先週)                               |           | 22.5万件      |
|       |    | 21:30 | 米・生産者物価指数(5月)                                  | 0.5%      | 1.0%        |
|       |    | 25:00 | 米・家計純資産変化(1-3月)                                |           | 2兆1730億ドル   |
|       |    |       | 欧・ユーロ圏財務相会合                                    |           |             |
|       |    |       | 石油輸出国機構(OPEC)月報                                |           |             |
| 6月12日 | 金  | 13:30 | 設備稼働率(4月)                                      |           | -1.2%       |
|       |    | 13:30 | 鉱工業生産指数(4月)                                    |           | 0.8%        |
|       |    | 15:00 | 生保協会長が会見                                       |           |             |
|       |    | 15:00 | 独・CPI(5月)                                      |           | -0.2%       |
|       |    | 15:00 | 英・鉱工業生産指数(4月)                                  |           | -0.2%       |
|       |    | 15:00 | 英・商品貿易収支(4月)                                   |           | -272.18億ポンド |
|       |    | 19:30 | 印・消費者物価指数(5月)                                  | 4.00%     | 3.48%       |
|       |    | 20:30 | 印・外貨準備高(先週)                                    |           |             |
|       |    | 21:00 | ブ・拡大消費者物価指数(IPCA)(5月)                          |           | 0.67%       |
|       |    | 23:00 | 米・ミシガン大学消費者マインド指数速報値(6月)                       | 46.0      | 44.8        |
|       |    |       | 欧・欧州連合(欧)財務相理事会                                |           |             |
| 6月15日 | 月  |       | 日銀・金融政策決定会合                                    |           |             |
|       |    | 13:30 | 第三次産業活動指数(4月)                                  |           | -0.2%       |
|       |    | 18:00 | 欧・鉱工業生産(4月)                                    |           | 0.2%        |
|       |    | 18:00 | 欧・貿易収支(季調済)(4月)                                |           | 35億ユーロ      |
|       |    | 21:30 | 米・ニューヨーク連銀製造業景気指数(6月)                          |           | 19.6        |
|       |    | 22:15 | 米・鉱工業生産(5月)                                    |           | 0.7%        |
|       |    | 23:00 | 米・NAHB住宅市場指数(6月)                               |           | 37          |

## 重要事項（ディスクレーマー）

当レポートは株式会社時事通信社が企画し、株式会社フィスコが編集しております。当レポート上で提供している内容は、信頼に値すると判断した情報を基に作成されていますが、あくまでも情報提供が目的であり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。当レポートに基づいて投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、フィスコは保証を行っておらず、理由のいかんを問わず責任を負いません。投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願い致します。

株式会社時事通信社 株式会社フィスコ

# J Trust Global Securities

## Weekly Market Report

### 【ご投資にあたって】

本レポートの記載の内容を参考にしてお取引をされる場合、店舗における国内の金融商品取引所に上場する株式（売買単位未満を除く）の場合は約定代金に対して最大1.1524%（税込）（但し約定代金の1.1524%（税込）に相当する額が3,300円（税込）に満たない場合は3,300円（税込）の委託手数料をご負担いただきます。また、株式相場、金利水準、不動産相場、商品相場等の価格の変動等及び有価証券の発行者の信用状況（財務・経営状況含む）の悪化等、それらに関する外部評価の変化等により損失が生じるおそれ（元本欠損リスク）があります。尚、信用取引などを行う場合には、対象となる株式等または指標等の価格変動により損失の額がお客様の差し入れた委託保証金などの額を上回るおそれ（元本超過損リスク）があります。尚、商品毎に手数料及びリスク等は異なりますので、当該商品の目論見書及び契約締結前交付書面をよくお読みください。

### 【免責事項】

本資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されたものですが、当社はその正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。本資料に基づき投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、当社は、理由の如何を問わず責任を負いません。本資料は、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の銘柄等の勧誘、売買の推奨または相場動向の保証等を行うものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、本資料をお客様ご自身のためにのみ、お客様の限りでご利用ください。尚、当社の事前の承諾なく、本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

### 【利益相反情報について】

当社および関係会社又はその役職員は、本資料に記載された証券についてポジションを保有している場合があります。また、本資料に記載された会社に対して、引受等の投資銀行業務、その他のサービス提供の勧誘を行なう場合があります。当社の役員（会社法に規定する取締役、監査役又はこれに準ずる者をいう。）が、以下の会社の役員を兼務しております。

株式会社キューソー流通システム、巴工業株式会社

### ■Jトラストグローバル証券株式会社 本支店リスト■

|               |           |                                  |              |
|---------------|-----------|----------------------------------|--------------|
| 本社ウェルスマネジメント部 | 〒150-6007 | 東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー7階 | 03-4560-0219 |
| 葛飾支店          | 〒124-0012 | 東京都葛飾区立石7-4-13                   | 03-3693-0081 |
| 横浜支店          | 〒231-0015 | 神奈川県横浜市中区尾上町2-18-1 YSビル1階        | 045-680-4355 |
| 名古屋支店         | 〒450-0002 | 愛知県名古屋市中村区名駅3-25-9 堀内ビルディング2階    | 052-686-5940 |
| 大阪支店          | 〒530-0002 | 大阪府大阪市北区曽根崎新地1-4-10 銀泉桜橋ビル3階     | 06-6442-3040 |
| 福岡支店          | 〒810-0001 | 福岡県福岡市中央区天神1-12-14 紙与渡辺ビル8階      | 092-736-6021 |
| プライベートバンキング部  | 〒150-6007 | 東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー7階 | 03-4560-0221 |
| コール&ネット       | 〒150-6007 | 東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー7階 | 03-4560-0350 |